概　　況

亀　山　市　の　沿　革

亀山市の歴史は古く、鈴鹿の関は、越前の愛発、美濃の不破とともに日本三関と呼ばれ都と東国を結ぶ交通の要衝として栄えました。江戸時代には亀山宿、関宿、坂下宿が東海道の宿場町としてにぎわい、とりわけ、関宿は、西の追分で鈴鹿峠越えの東海道と加太越えの大和・伊賀街道へ、東の追分で東海道と伊勢別街道へ、それぞれ分岐していたため、参勤交代や伊勢参りなど、多くの旅人が往来しました。また、亀山宿は、亀山城を中心に町が形成され、現在の市街地の基礎となっています。

明治4年に廃藩置県、明治22年の新市町村制の施行に伴い戸数1,300戸、人口7,000人の亀山町が誕生、明治41年には更に１ヵ村を合併し人口も10,000人を数え、昭和29年（1954年）まで、この地域は亀山町、昼生村、井田川村、川崎村、野登村、白川村、神辺村、関町、加太村、坂下村の２町８村から構成されていました。

昭和29年10月に亀山町と昼生村、井田川村、川崎村、野登村が合併し、亀山市が新設され、その後、一部が鈴鹿市へ編入し、新たに白川村、神辺村の一部や芸濃町楠平尾を編入し、亀山市となりました。

一方、昭和30年２月に関町に白川村、神辺村の一部を編入し、昭和30年４月に関町と加太村、坂下村が合併して関町が新設され、その後、一部が伊賀町へ編入し、新たに芸濃町萩原、福徳を編入して関町となりました。

平成17年１月11日には亀山市と関町が合併し、現在の「亀山市」が誕生しました。平成の大合併としては、県内で６番目の合併となり、人口は48,670人、面積が190.91㎢で、いずれも県内市町村中10番目の規模となり現在の市の行政区域として、平成20年２月21日、「５万人都市」となりました。

亀山市誕生当時の昭和30年代は、まさに亀山市の成長期でありました。戦後処理のまださめやらぬ中で、保育所の建設、失業者対策、衛生施設の整備、道路交通網の整備、教育施設の整備等、文化的な生活を営む上で基本的に必要な生活基盤の整備を推進しました。

昭和40年代の日本経済の高度成長期には、能褒野工業団地に代表される企業誘致や住宅団地の造成等によって、産業構造や市民生活が大きく変化しました。また、昭和46年の台風23・29号や昭和49年の集中豪雨等の大災害に遭遇しましたが、これらに対応すべく産業基盤の整備、上水道の敷設、福祉施設の充実等、産業の近代化と社会福祉の向上を図りつつ、昭和50年代にスポーツ施設の建設、関西本線の電化推進、街路の整備、文化施設の建設及び生活環境施設等の整備充実に取り組みました。

現在は、本市の中長期戦略となる「第２次亀山市総合計画」を策定し、将来都市像として“歴史･ひと･自然が心地よい 緑の健都かめやま”を掲げ、その実現をめざし、希望と信頼の開かれた市制に向けた取り組みを進めているところです。

亀　山　市　消　防　の　あ　ゆ　み

昭和24年　2月 消防組織法（昭和23年法律第226号）に基づき亀山町消防本部を設置
消防職員4名（役場兼務職員を含む）、消防ポンプ自動車1台をもって自治体消防を発足する
昭和26年　2月 消防本部に水槽付消防ポンプ自動車1台配置
昭和27年　3月 日本消防協会から表彰旗を授与
昭和29年　3月 消防庁長官から竿頭綬を授与
10月 鈴鹿郡亀山町、川崎村、野登村、井田川村、及び昼生村の5ヶ町村が合併して市制を施行し「亀山市」を発足
市制施行により、亀山町消防本部を亀山市消防本部に名称替えを、また消防団は5団制をとる

消防本部	1	消防職員	3名	水槽付消防ポンプ自動車	1台
消防団	5	消防団員	295名	消防ポンプ自動車	3台
手引動力ポンプ	11台				

昭和30年　2月 鈴鹿郡神辺村布気、太岡寺、山下、木下及び小野の一部並びに白川村白木、小川の区域を編入合併、旧神辺村、白川村消防団に加え7団制、団員366名となる

5月 各地区の旧消防関係条例を廃止し、亀山市消防に関する条例施行により消防団を統合再編成する

消防団	1団	6ヶ分団	消防団員　366名
消防団の管轄区域		第1分団	（旧亀山町、井田川村）
		第2分団	（旧神辺村）
		第3分団	（旧昼生村）
		第4分団	（旧川崎村）
		第5分団	（旧野登村）
		第6分団	（旧白川村）

初代消防団長に伊藤栄二郎氏が就任
6月 消防本部に消防ポンプ自動車1台配置
昭和31年　6月 第4分団（太田）、第5分団（池山）、第6分団（小川）に小型動力ポンプ各1台配置
消防本部に中短波陸上無線電話（基地局1、移動局2）設置
昭和32年　5月 職員1名増員
9月 第2分団（山下）、第3分団（中庄）に小型動力ポンプ各1台配置
昭和33年　8月 職員2名増員
10月 消防本部に消防ポンプ自動車1台配置
昭和34年　4月 新消防庁舎を本丸町577に建設する
昭和34年4月10日着工　昭和34年6月23日竣工
木造亜鉛鉄瓦棒葺平屋建　建築面積　208．17㎡
8月 職員1名増員
12月 消防本部に中短波陸上無線電話の移動局（1）を増設
昭和34年9月、台風15号（伊勢湾台風）による風水害の災害救助、復旧に尽力し、消防団が国務大臣（中部日本災害対策本部長）から12月9日感謝状を授与
昭和35年　11月 第2分団（小野）、第5分団（坂本）に小型動力ポンプ各1台配置
12月 消防本部に中短波陸上無線電話の移動局（1）を増設
昭和36年　5月 第5分団（平尾）に運搬車1台配置
6月 職員2名増員
9月 第4分団（能褒野）、第6分団（松山）に小型動力ポンプ各1台配置
昭和37年　4月 消防本部に事務連絡用単車1台配置
5月 第4分団（南条）に運搬車1台配置、職員1名増員
10月 第3分団（三寺）、第6分団（松山）に小型動力ポンプ1台配置
11月 職員4名増員
昭和38年　10月 職員1名増員
昭和39年　1月 消防本部に運搬車1台配置
3月 消防本部に小型動力ポンプ1台配置し運搬車に積載する
7月 職員1名増員
11月 消防本部に水槽付消防ポンプ自動車1台配置し消防ポンプ自動車1台を第1分団へ配置替えする
昭和40年　4月 消防団条例の一部改正により消防団員を317名に削減、職員2名、女子事務員1名増員
8月 職員1名増員
10月 第5分団（安楽）に小型動力ポンプ1台配置
昭和41年　4月 職員8名増員

8月 第2分団（太岡寺）、第6分団（白木）に運搬車各1台配置、また第4分団（田村）に小型動力ポンプ１台配置

昭和42年 3月 元消防庁舎跡に鉄筋コンクリート造の新庁舎を建設
昭和42年4月1日着工　　昭和42年10月30日竣工

4月 消防署を設置、名称を亀山市消防署とし、消防本部・署職員31名、水槽付消防ポンプ自動車２台、消防ポンプ自動車1台、職員5名増員

8月 第3分団（中庄）に運搬車1台配置

10月 亀山ライオンズクラブから気象観測計器（自記風向、風速計）の寄贈を受け、また自記雨量計、通風乾湿計等気象観測施設を設置

昭和43年 3月 昭和42年3月6日に発生した国道1号鈴鹿トンネル内の車両火災に際し、その消防活動の功績に対し消防本部、消防団が三重県知事から表彰を受ける
第4分団（南条）に小型動力ポンプ1台配置

5月 第5分団（平尾）の運搬車更新

9月 消防団条例の一部改正により消防団員を280名に削減
職員1名退職

昭和44年 4月 日本損害保険協会から「火災保険号」の寄贈を受け消防署に配置

8月 消防署に救急自動車1台配置

9月 政令指定により救急業務開始
第2分団（木下）、第5分団（辺法寺）、第6分団（白木）に小型動力ポンプ各1台配置

10月 中短波陸上無線電話（基地局1、移動局4）を超短波無線電話に全て切り替えるとともに移動局（２）を増設する　職員1名増員
消防団長伊藤栄二郎氏が退団（死亡）

12月 消防団長に一見忠夫氏が就任

昭和45年 4月 職員3名増員

6月 第4分団（徳原）に小型動力ポンプ1台配置

7月 消防署に運搬車1台配置

昭和46年 3月 宮西昌雄氏から寄付金を受け「空気呼吸器3基」「超短波無線電話1基」を購入し消防署に配置

9月 消防署に携帯超短波無線電話1基配置

12月 第2分団（中村）、第5分団（原尾）小型動力ポンプ各1台配置

昭和47年 2月 職員1名退職

3月 消防署に消防ポンプ自動車1台を配置し、消防署の消防ポンプ自動車1台を第1分団（本町）に配置替
三重県消防大会（3月29日）において三重県知事から優良消防団として竿頭綬を授与

4月 消防署に携帯用超短波無線電話2基配置　　職員3名増員

6月 第1分団（本町）、第4分団（南条）の運搬車更新

8月 第1分団（本町）に小型動力ポンプ1台配置、運搬車に積載

昭和48年 2月 消防署にⅡ型化学消防自動車1台配置

3月 成田正次、中島　高、両氏から寄付金を受け「携帯用酸素切断機1台」、「背負式消火水のう8基」を購入し消防署に配置

4月 職員1名欠員補充

6月 消防署に広報車（1600cc）1台配置

9月 第3分団（三寺）、第6分団（松山）に小型動力ポンプ各1台配置

昭和49年 3月 第1分団（川合）、第6分団（小川）分団車庫新築

4月 職員2名欠員補充

7月 第4分団（太田）分団車庫新築
消防本部組織を一部改正し、新しく危険物係を設置

8月 第4分団（太田）、第5分団（池山）の小型動力ポンプ更新

11月 三重県知事から7月未明の集中豪雨の功労に対し表彰状を授与

昭和50年 4月 職員4名欠員補充

5月 石井彦一郎氏から、単車（125cc）の寄贈を受け消防署に配置

10月 三重県共済農業組合連合会から救急車（２Ｂ型）の寄贈を受け消防署に配置
第2分団（山下）、第3分団（中庄）の小型動力ポンプ更新

昭和51年 2月 第3分団（下庄）、第4分団（田村）分団車庫新築

3月 第5分団（平尾）分団車庫新築、移転
職員1名退職

4月 職員4名欠員補充

10月 第2分団（小野）、第6分団（小川）の小型動力ポンプ更新

昭和52年 1月 第5分団（辺法寺）分団車庫新築

4月 職員4名欠員補充
職員1名退職

8月 第4分団（能褒野）、第5分団（坂本）の小型動力ポンプ更新

9月 消防署に車載用超短波無線機2台配置
10月 第6分団（上白木）分団車庫新築
12月 第5分団（原尾）分団車庫増築
昭和53年 4月 消防長（初代専任）三宅長治氏が就任
職員4名欠員補充
7月 消防本部及び消防署の機構改革を図る　本部に庶務係、予防係、危険物係、防災係、企画係の5係を消防署に消防第一・第二係、救急通信第一・第二係の4係を設置
9月 関町と亀山市との間における消防事務の事務委託に関する規約を議決
小型動力ポンプ付積載車を消防団本部（本町）、第1分団（井田川）、第5分団（平尾）に配置
小型動力ポンプ台車付1台を第3分団（下庄）に配置（更新）
10月 自動遠隔サイレン吹鳴装置、基地局1基、子局3基（太岡寺町、白木町、川崎町）設置
11月 日本損害保険協会から「火災保険号」の寄贈を受け消防署に配置
昭和54年 2月 事務委託に関する規約に基づき、協定書及び覚書の調印を行った
消防署にトヨタ２Ｂ型救急車配置及び移動用10W無線機を積載
3月 関町と亀山市との広域消防施行式を商工会館にて挙行
第4分団（南条）に分団車庫新築
4月 関町と亀山市との間における消防事務の事務委託業務を開始
広域消防整備計画に基づき消防職員11名を増員
9月 自動遠隔サイレン吹鳴装置、子局4基（井田川、昼生、平尾、池山）設置
関分署庁舎竣工式
10月 亀山市消防署関分署開署式挙行、分署長以下15名職員を配置し分署業務を開始
消防事務委託に関する規約及び協定書に基づき、分署の施設・備品の整備について覚書を交換し、その体制を整える
小型動力ポンプ付積載車1台を第6分団（白木）に配置、小型動力ポンプ付積載車1台を第3分団（中庄）に配置（更新）
昭和55年 4月 職員1名退職
5月 消防本部に広報車（1400cc）1台配置
7月 亀山市防火協会の発足
消防署に携帯用超短波無線電話5W4基配置
8月 災害情報等自動案内装置（機種ゼネラル）1台消防署に配置
10月 山林火災用軽四輪積載車（550cc）1台消防署に配置
小型動力ポンプ付積載車（Ｂ３級）2台、第2分団（太岡寺）、第4分団（南条）に配置（更新）
職員1名欠員補充
昭和56年 3月 第2分団（神辺）分団車庫新築
消防団長一見忠夫氏が退団
4月 消防団長に村山守氏が就任
亀山・関地域ガス安全対策連絡協議会発足
5月 消防本部及び消防署の機構改革を図る　本部に庶務係、警防係、予防係、危険物係4係を、消防署に新たに装備係を設置
昭和57年 1月 亀山市消防の歌制定
8月 団本部に小型動力ポンプ付積載車（Ｂ３級）１台配置
第5分団（安楽）に小型動力ポンプ（Ｂ３級）１台配置
11月 関分署に水槽付消防ポンプ車（Ⅰ－Ｂ型　Ａ２級）１台配置
昭和58年 1月 消防本部及び消防署の機構改革を図る　本部に総務係、予防係、消防署に警防係、査察係、訓練指導係、装備係、関分署に警防係を設置
職員1名退職
3月 第6分団（白川、松山）分団車庫新築
11月 消防署に水槽付消防ポンプ自動車（Ⅰ－Ｂ型　Ａ２級）1台配置
12月 消防署に救急医療情報システム設置
昭和59年 2月 職員1名退職
3月 消防長三宅長治氏が退職
消防署に通信指令係を設置
4月 消防長に下條繁氏が就任
第5分団（池山）分団車庫新築
12月 幼年消防クラブ（4クラブ）設立
昭和60年 2月 第1分団（本町）分団詰所改築工事
3月 第36回三重県消防大会　亀山市文化会館にて開催
職員2名退職
移動用無線機5W　2基購入
4月 職員2名欠員補充
消防本部組織の一部改正により、消防署に整備指導係を設置

消防団再編成計画により、消防団員定員280名を262名に再編成
8月 亀山関幼年婦人防火委員会設立
9月 第4分団（田村）の小型動力ポンプ（Ｂ３級）更新
10月 亀山ライオンズクラブから救急車（２Ｂ型）の寄贈を受け消防署に設置
12月 平尾婦人防火クラブ（1クラブ）設立
昭和61年 4月 消防団再編成計画により、消防団員定員262名を251名に再編成
5月 消防本部の広報車（1600cc）更新
6月 職員1名退職
10月 第1分団（羽若）分団車庫新築（増）
第1分団（羽若）に小型動力ポンプ付積載車（Ｂ３級）１台配置
11月 昼生地区コミュニティ消防センター新築
消防署に消防専用超短波無線機固定用10W1台配置
昭和62年 2月 第3分団（中庄）、第5分団（平尾）、第6分団（白木）に林野火災用軽可搬式ポンプ（Ｄ１級）各1台配置
3月 自治省消防庁から消防庁長官表彰旗を授与
カメヤマローソク（株）から消防資金として100万円寄贈（空気呼吸器資金）
4月 職員1名欠員補充
消防団再編成計画により、消防団員定員251名を243名に再編成
7月 消防署関分署に広報車（1600ｃｃ）1台配置
11月 第2分団（木下）に小型動力ポンプ（Ｂ３級）1台配置
12月 空気呼吸器150kgf/cm^2 10基購入
昭和63年 3月 本町地区防災センター新築
第1分団（天神）分団車庫新築（積載車1台配置）
4月 消防団再編成計画により、消防団員定員243名を240名に再編成（再編成計画終決）
7月 三重県消防団長会議　亀山市文化会館にて開催
野登地区（辺法寺、原尾、安楽、池山、坂本）婦人防火クラブ（5クラブ）設立
10月 山林火災用軽四輪積載車（550cc）1台消防署に配置（更新）
第5分団（辺法寺）の小型動力ポンプ（Ｂ３級）更新
11月 第2分団（布気）分団車庫新築（増）
12月 第2分団（布気）に小型動力ポンプ付積載車（Ｂ３級）1台配置
携帯用無線機（5W）5基購入
平成元年 5月 関地区（市瀬）婦人防火クラブ（1クラブ）設立
8月 （財）日本消防協会から、平尾婦人防火クラブに軽可搬（Ｄ１級）1台寄贈
10月 （財）日本消防協会から、携帯用無線機10基、携帯拡声器2台の寄贈を受ける
11月 第6分団（上白木）の小型動力ポンプ（Ｂ３級）更新
防災行政用無線機を消防団積載車搭載　10基
12月 消防署の消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ｉ型、Ａ２級）更新
亀山3号を第1分団本町車庫に配置替え
平成 2年 2月 （財）日本消防協会から、亀山市消防団に竿頭綬を授与
3月 第2分団（山下、木下）分団車庫新築移転
7月 職員1名退職
8月 （財）日本消防協会から救急自動車（２Ｂ型）寄贈
団本部に小型動力ポンプ付積載車（Ｂ３級）更新
9月 第4分団（徳原）、第5分団（原尾）の小型動力ポンプ（Ｂ３級）更新
10月 第6分団（松山）に山林火災用軽四輪積載車1台配置（増）
12月 消防署関分署の救急車（２Ｂ型）更新
平成 3年 1月 第3分団（三寺）分団車庫新築移転
2月 消防署の化学消防ポンプ自動車（II型・Ａ２級）更新
空気呼吸器300kgf/cm^2 5基購入
3月 消防長下條繁氏が退職
消防団長村山守氏退団
4月 消防長に田名瀬治好氏が就任
消防団長に鈴木吉男氏が就任
職員2名欠員補充
5月 消防本部の指令広報車（1800cc）更新
9月 第1分団（井田川）の小型動力ポンプ付積載車（Ｂ３級）更新
10月 第6分団（松山）の小型動力ポンプ（Ｂ３級）更新
消防署の軽可搬小型動力ポンプ（Ｃ１級）更新
11月 第5分団（池山）に山林火災用軽四輪積載車（660cc）1台配置（増）
平成 4年 1月 （社）日本自動車工業会から救急自動車（２Ｂ型）寄贈
2月 消防署の救急自動車（２Ｂ型）更新
第5分団（坂本）分団車庫新築移転

4月 職員1名欠員補充
7月 消防本部の指揮車(2000cc)更新
8月 第1分団(天神)、第5分団(平尾)の小型動力ポンプ付積載車(Ｂ３級)更新
10月 第3分団(下庄)の山林火災用軽四輪積載車(660cc)1台配置(増)
第3分団(三寺)の小型動力ポンプ(Ｂ３級)更新
12月 消防署の消防ポンプ自動車(ＣＤ-Ⅰ型、Ａ２級)更新

平成 5年 1月 第2分団(小野)分団車庫新築移転
関分署管内119番の本署統合、通信の一元化
3月 亀山6号を第1分団本町車庫配置替え(更新)
9月 第3分団(中庄)、第6分団(白木)の小型動力ポンプ付積載車(Ｂ３級)更新

平成 6年 1月 第5分団(池山)の小型動力ポンプ(Ｂ３級)更新
3月 防災ヘリ用消防無線機(基地局・固定局)1基増設
消防無線設備周波数変更(153.55MHzを151.31MHz)
消防署救急自動車(２Ｂ型)を高規格救急車に更新
救急用資器材(ＥＯＧ滅菌器、気管挿入モデル、SpO^2測定器等　10点)配備
第4分団(徳原)、第5分団(安楽)分団車庫新築移転
第4分団(田村)に山林火災用軽四輪積載車(660cc)1台配置(増)
第5分団(池山)の小型動力ポンプ(Ｂ３級)更新
4月 職員2名増員
6月 高規格救急車　車両艤装(自動車ＦＡＸ、バックアイカメラ・モニター外５点)
白川地区(小川町)小川婦人防火クラブ(1クラブ)設立
7月 消防本部、消防署機構改革　本部の消防課に企画整備係と危険物係を、消防署に救急通信担当司令、警防担当司令と救急係を新設
救急用資器材配備(自動式人工呼吸器、自動心肺蘇生装置、在宅医療処置用セット外５点)
職員1名退職
10月 消防庁舎移転用地無線伝播調査
11月 救急救命士資格取得1名
消防庁舎移転用地買収(野村四丁目1279-2)
12月 第2分団(布気)消防詰所増築

平成 7年 １月 阪神・淡路大震災に伴う出動（消火隊）
3月 消防庁舎移転用地地質調査
亀山市消防庁舎設計監理委託(梓設計)
第2分団(太岡寺)、第4分団(南条)の小型動力ポンプ付積載車(Ｂ３級)更新
消防長田名瀬治好氏が退職
4月 消防長に羽多野勇喜男氏が就任
消防本部の機構改革　予防課を新設
職員2名増員
6月 消防本部の防火広報車(亀山４)更新
9月 宮西祥雄氏から耐ガス密封防護服2着、複合ガス検知器1基、防毒衣3着の寄贈を受け消防署に配備
12月 消防庁舎新築移転工事着工

平成 8年 1月 第4分団(太田)の小型動力ポンプ(Ｂ３級)更新
2月 第3分団(三寺)に山林火災用軽四輪積載車(660cc)1台配備(増)
3月 第6分団(小川)分団車庫改築
4月 職員2名増員
亀山地区　楠平尾婦人防火クラブ(1クラブ)設立
5月 救急救命士資格取得1名
8月 関地区「関町スポーツ少年団」少年消防クラブ(1クラブ)設立
12月 関分署の消防ポンプ自動車(ＣＤ－１)関１　更新

平成 9年 2月 第2分団(山下)の小型動力ポンプ(Ｂ３級)更新
第6分団(小川)に山林火災用軽四輪積載車(660cc)1台配備(増)及び小型動力ポンプ(Ｂ３級)更新
高度救急処置シュミレーター(救急処置用人形一式、心肺蘇生用訓練人形一式)を配備
亀山市野村四丁目1番23号に新消防庁舎建築工事完了
庁舎棟
鉄筋コンクリート造３階建
建築面積　1,683.20㎡
延べ面積　2,479.71㎡
訓練塔(主塔)
鉄筋コンクリート造一部鉄骨造３階建
建築面積　30.25㎡

延べ面積　　90.75㎡
訓練塔（副塔）
鉄骨造３階建
建築面積　　29.03㎡
延べ面積　　49.52㎡
3月 消防緊急通信指令施設（Ⅰ型）設置工事完了
防災展示コーナー（消防プラザ）設置工事完了
第4分団（能褒野）分団車庫改築
第5分団（池山）にホース干し鉄塔建設
職員3名退職
4月 亀山市消防本部、亀山消防署、新庁舎竣工運用開始
亀山市消防本部、亀山消防署機構改革に伴い消防本部に通信指令室を新設
関分署を関消防署に昇格、1本部2署体制とする
職員3名欠員補充
5月 救急救命士資格取得1名
6月 消防本部に事務連絡用軽四輪車1台配備（増）
8月 消防無線機（移動局10W2台、携帯局5W8台）更新
10月 消防団長鈴木吉男氏が退団
11月 消防団長に葛西行弘氏が就任
消防緊急通信指令施設指令伝送出力装置設置工事完了（市役所内2箇所に設置）
12月 第5分団（辺法寺）に山林火災用軽四輪積載車（660cc）1台配置（増）
第2分団（小野）、第4分団（能褒野）、第5分団（坂本）の小型動力ポンプ（Ｂ３級）更新
平成10年　3月 亀山消防署に救助工作車Ⅱ型1台配置（増）
第49回三重県消防大会　亀山市文化会館にて開催
職員1名退職
4月 職員1名欠員補充　1名増員
三重県防災航空隊派遣1名
5月 第49回全国消防長会救急委員会　亀山市消防庁舎、亀山市文化会館にて開催
10月 移動体電話119番通報運用開始
12月 第2分団（木下）に山林火災用軽四輪積載車（660cc）1台配置（増）
第3分団（下庄）の小型動力ポンプ（Ｂ３級）更新
平成11年　3月 第5分団（辺法寺）ホース干し鉄塔建設
消防長羽多野勇喜男氏が退職
職員1名退職
4月 消防長に三宅昭之氏が就任
亀山市消防団規則の一部改正に伴い6分団制から7分団制に組織改革
第1分団（亀　山）
第2分団（神　辺）
第3分団（昼　生）
第4分団（川　崎）
第5分団（野　登）
第6分団（白　川）
第7分団（井田川）
組織改革に伴い第1分団（井田川消防車庫）を第7分団（川合消防車庫）に変更
職員1名欠員補充
5月 救急救命士資格取得1名
9月 第7分団（みどり町）分団車庫及びホース干し鉄塔新築
12月 消防団本部の小型動力ポンプ付積載車（亀山１）更新
第7分団（みどり町）に小型動力ポンプ付積載車1台配置（増）
第5分団（安楽）の小型動力ポンプ（Ｂ３級）更新
平成12年　2月 亀山消防署の山林火災用軽四輪積載車（亀山５）更新
3月 職員1名退職
4月 職員１名欠員補充
5月 救急救命士資格取得1名
11月 職員1名退職
平成13年　1月 第1分団（本町）の小型動力ポンプ付積載車1台更新
2月 亀山消防署の水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型（亀山７）1台更新
3月 職員1名退職
4月 職員2名欠員補充
5月 救急救命士資格取得1名
消防本部の指令広報車（亀山52）更新
11月 関消防署の救急自動車（２Ｂ型）を高規格救急車に更新
12月 職員1名退職

第1分団(羽若)の小型動力ポンプ付積載車1台更新
平成14年　3月 消防長三宅昭之氏が退職
職員1名退職
4月 消防長に米田功氏が就任
職員2名欠員補充
平成14年度全国消防長会東海支部総会　亀山市文化会館にて開催
5月 救急救命士資格取得1名
12月 亀山消防署の救急自動車(２Ｂ型)を高規格救急車に更新
平成15年　3月 関消防署新庁舎竣工運用開始
構　　造　　木造２階建一部鉄筋コンクリート造
敷地面積　　2,256.02㎡
建築面積　　685.43㎡
延べ面積　　781.03㎡
職員1名退職
4月 消防職員の条例定員67名を71名に改正
職員3名増員　　1名欠員補充
消防団員再編成計画により、消防団員定員240名を270名に再編成
5月 救急救命士資格取得1名
緊急消防援助隊登録（消火隊）
8月 桑名郡多度町三重ごみ固形燃料（RDF）発電所火災に三重県内消防相互応援協定に基づき出動
11月 自治体消防５５周年記念式典参加（東京都）
平成16年　1月 消防本部の消防長車（亀山５１）更新
2月 関消防署の水槽付消防ポンプ自動車（A-２）更新
3月 亀山消防署に３０m級はしご付消防ポンプ自動車配置
ISO１４００１認証取得
4月 亀山消防署の救助工作車を関消防署へ配置替え
職員１名欠員補充
亀山市消防団規則の一部改正に伴い７分団制から８分団制に組織改革、並びに女性消防団発足
第1分団(亀山地区北部)
第2分団(神　辺　地　区)
第3分団(昼　生　地　区)
第4分団(川　崎　地　区)
第5分団(野　登　地　区)
第6分団(白　川　地　区)
第7分団(井田川 地　区)
第8分団(亀山地区南部)
7月 福井豪雨に伴い、緊急消防援助隊（三重県隊）として出動
12月 消防防災備蓄倉庫竣工
構　　造　　鉄骨造２階建
延べ面積　　163.9㎡
平成17年　1月 １１日、亀山市と関町（１市１町）による市町村合併により新市誕生
合併に伴い、消防団組織の見直しを行い、一団制、１２分団及び女性分団が発足し、定員４１５名となる。
4月 職員２名増員
三重県消防学校教官派遣1名
5月 救急救命士資格取得1名
7月 消防本部広報車（亀山６１）更新
10月 移動体電話119番直接受信運用開始
平成18年　2月 第8分団（阿野田）分団車庫及びホース干し鉄塔新築、小型動力ポンプ付き積載車1台配置（増）
3月 消防長米田功氏が退職
職員3名退職
4月 消防長に竹内清氏が就任
消防職員の条例定員71名を76名に改正
職員5名採用
三重県消防学校教官派遣1名
5月 救急救命士資格取得1名
平成19年　3月 第９分団（関地区消防団詰所）積載車更新
亀山消防署の高規格救急車（救急亀山２）を更新
職員3名退職
4月 職員5名採用
5月 救急救命士資格取得1名

第４分団（田村車庫）小型動力ポンプ更新
8月 第９分団（新所車庫）小型動力ポンプ付積載車購入
12月 亀山消防署の消防ポンプ自動車ＣＤ-1を更新
平成20年 2月 新名神高速道路供用開始
3月 第4分団田村車庫改築及びホース干しポール設置
職員5名退職
4月 消防職員の条例定員76名を73名に改正
職員2名採用
三重県と人事交流　防災危機管理部 消防・保安室 派遣１名
三重県消防学校教官派遣１名
5月 救急救命士資格取得1名
6月 第12分団（加太地区消防団詰所）積載車更新
12月 第2分団（布気車庫）小型動力ポンプ付積載車更新
平成21年 2月 第3分団（下庄）分団車庫改築
3月 化学消防ポンプ自動車（Ⅱ型）を災害対応特殊化学消防ポンプ自動車（Ⅱ型）に更新
5月 救急救命士資格取得1名
12月 第11分団（沓掛車庫）小型動力ポンプ付積載車更新
第4分団（太田）分団車庫改築
平成22年 3月 消防緊急通信指令設備一部改修
第4分団（能褒野車庫）小型動力ポンプ付軽四輪積載車1台配置（増）
消防長竹内清氏が退職
4月 消防長に渥美正行氏が就任
職員1名採用
三重県防災航空隊派遣1名
5月 救急救命士資格取得1名
7月 消防救助技術全国大会へ派遣(2名)
11月 第5分団（池山車庫）小型動力ポンプ付軽四輪積載車更新
12月 関消防署の指令広報車（亀山62）更新
平成23年 3月 東日本大震災に伴い、緊急消防援助隊（三重県隊）として出動
職員2名退職
4月 職員2名採用
5月 救急救命士資格取得1名
7月 亀山市消防力適正配置調査の実施
10月 第３分団（中庄車庫）小型動力ポンプ付積載車更新
12月 関消防署の高規格救急車（救急関１）更新
平成24年 2月 第11分団（坂下）車庫改築
3月 第6分団（松山車庫）小型動力ポンプ付軽四輪積載車更新
常備消防力適正配置調査完了
職員１名退職
4月 消防職員の条例定員73名を83名に改正
職員3名増員
亀山市消防本部組織規則を改正し、北東分署建設準備室、指揮支援隊を設置
5月 救急救命士資格取得2名
12月 第7分団（川合車庫）小型動力ポンプ付積載車更新
第10分団（萩原車庫）小型動力ポンプ付積載車更新
指揮支援隊に指揮車(亀山51)を配置
平成25年 2月 亀山市消防力充実強化プラン策定
3月 亀山消防署の消防ポンプ自動車ＣＤ-1を更新
第10分団（会下）車庫新築移転
職員1名退職
消防団長葛西行弘氏が退団
4月 消防団長に松尾幸夫氏が就任
職員5名採用
三重県消防学校教官派遣
消防職員意見発表会(東海地区)へ派遣(1名)
5月 救急救命士資格取得2名
救急ワークステーション(試行運用開始)
12月 第11分団（市場車庫）小型動力ポンプ付積載車更新
平成26年 2月 第9分団（詰所）消防ポンプ自動車をCD-1に更新
3月 消防指令センターの高機能化
消防長渥美正行氏が退職
職員3名退職

4月 消防長に中根英二氏が就任
職員5名採用
亀山市消防本部組織規則を改正し、消防救急室を設置
5月 救急救命士資格取得2名
救急ワークステーション本格運用開始
6月 職員1名退職
7月 第9分団（関地区）が三重県消防操法大会（小型ポンプ操法の部）で優勝
12月 女性分団　小型動力ポンプ付軽積載車新規導入
第3分団（下庄車庫）小型動力ポンプ付軽積載車更新
第8分団（天神車庫）小型動力ポンプ付普通積載車更新

平成27年　3月 職員3名退職
高規格救急車2台更新（救急亀山1、救急亀山5）
北東分署庁舎竣工
構　　造　　鉄筋コンクリート一部鉄骨造平屋建て
敷地面積　　9,378.26㎡
建築面積　　863.98㎡
延べ面積　　832.72㎡
4月 職員6名採用
職員1名退職
北東分署運用開始
消防救急デジタル無線（活動波）運用開始　※共通波は三重県が整備
北東分署の開署に伴い亀山市消防本部及び消防署の設置等に関する条例を改正し、1本部1署2分署体制に組織を改編する。
北東分署の開署に伴い亀山市消防本部組織規則を改正し、北東分署建設準備室を廃止
亀山市消防署組織を定める規程を改正し、指揮支援隊を本部から署へ配置転換
5月 救急救命士資格取得2名
12月 第5分団（平尾車庫）小型動力ポンプ付普通積載車更新
第10分団（木崎鳥居車庫）小型動力ポンプ付普通積載車更新

平成28年　3月 北東分署に小型動力ポンプ付水槽車（亀山71）導入
亀山消防署に資機材搬送車（亀山72）導入
職員4名退職
4月 職員5名採用
再任用職員2名採用
5月 救急救命士資格取得1名
6月 再任用職員1名退職

平成29年　1月 第6分団（白木車庫）小型動力ポンプ付普通積載車更新
第11分団（坂下車庫）小型動力ポンプ付普通積載車更新
3月 職員6名退職
4月 職員4名採用
再任用職員2名採用
5月 救急救命士資格取得1名
12月 亀山消防署の救助工作車（亀山41）を更新

平成30年　2月 第4分団（田村車庫）小型動力ポンプ付軽積載車更新
第10分団（会下車庫）小型動力ポンプ付普通積載車更新
3月 消防長中根英二氏が退職
職員2名退職
4月 消防長に平松敏幸氏が就任
職員3名採用
再任用職員3名採用
三重県消防学校教官派遣
市の組織・機構の再編による部・室制から部・課・グループ制への変更に伴い、1部8室から2部6課15グループに組織を改編する
5月 救急救命士資格取得3名
7月 第4分団（川崎地区）が三重県消防操法大会（小型ポンプ操法の部）で優勝
西日本豪雨緊急消防援助隊出動

平成31年　2月 第2分団（太岡寺車庫）小型動力ポンプ付軽積載車更新
3月 職員3名退職
4月 職員2名採用
再任用職員2名採用

令和元年　5月 救急救命士資格取得2名

令和 2年　2月 第5分団（辺法寺車庫）小型動力ポンプ付軽積載車更新
亀山消防署の水槽付消防ポンプ自動車を消防ポンプ自動車（ＣＤ－1）に更新
3月 職員1名退職
4月 職員4名採用
再任用職員2名採用

令和 3年　1月 職員1名退職
2月 亀山市及び鈴鹿市によるはしご自動車の共同運用開始
3月 職員6名退職
4月 職員3名採用
再任用職員5名採用
11月 高規格救急車1台更新（救急亀山3）
12月 職員1名退職
令和 4年　3月 第4分団（川崎南条車庫）小型動力ポンプ付普通積載車更新
第7分団（みどり車庫）小型動力ポンプ付普通積載車更新
職員2名退職　再任用職員5名退職
4月 職員4名採用
三重県防災航空隊派遣1名
亀山市消防本部組織規則を改正し、警防課に査察・訓練指導グループを設置

亀　山　市　勢

面　　積	191.04 ㎢
人　　口	49,463 人
世 帯 数	21,946 世帯

（行政人口　令和4年4月1日現在）

消防本部設置年月日	昭和24年　2月11日
亀山市消防署設置年月日	昭和42年　4月 1日
亀山市消防署関分署設置年月日	昭和54年 10月 1日
亀山消防署設置年月日	平成9年　4月 1日
関消防署設置年月日	平成9年　4月 1日
亀山消防署関分署設置年月日	平成27年　4月 1日
亀山消防署北東分署設置年月日	平成27年　4月 1日
消防本部、亀山消防署所在地	三重県亀山市野村四丁目1番23号
亀山消防署関分署所在地	三重県亀山市関町木崎37番地１
亀山消防署北東分署所在地	三重県亀山市長明寺町842番地1

人口等に対する消防力の比較表

（R4. 4. 1現在）

消防本部・消防署	消防吏員　83 名	１名に対する	面　積	2.30 ㎢
			人　口	595.94 人
			世帯数	264.41 世帯
	消防ポンプ自動車　5 台	１台に対する	面　積	38.208 ㎢
			人　口	9892.60 人
			世帯数	4,389.20 世帯

市　予　算　と　消　防　予　算　の　比　較　表

（単位　千円）

区分 年度	市予算額	消防予算額	比率（％）	備　　考
平成２５年度	20,945,100	1,129,643	5.4	当初予算
平成２６年度	20,639,800	1,805,343	8.7	〃
平成２７年度	20,402,500	918,050	4.5	〃
平成２８年度	20,816,000	914,722	4.4	〃
平成２９年度	21,064,000	917,680	4.4	〃
平成３０年度	21,301,000	843,852	4.0	〃
平成３１年度	20,157,000	841,455	4.2	〃
令和２年度	21,790,000	1,031,083	4.7	〃
令和３年度	23,093,000	846,561	3.7	〃
令和４年度	22,077,000	835,395	3.8	〃

消　　防　　予　　算　　表

（単位　千円）

区分 年度	合　　計	常備消防費	非常備消防費	消防施設費
平成２５年度	1,129,643	712,164	57,552	359,927
平成２６年度	1,805,343	660,856	56,711	1,087,776
平成２７年度	918,050	772,643	55,707	89,700
平成２８年度	914,722	817,737	58,035	38,950
平成２９年度	917,680	728,365	56,129	133,186
平成３０年度	843,852	753,606	55,896	34,350
平成３１年度	841,455	698,851	64,298	78,306
令和２年度	1,031,083	858,577	55,179	117,327
令和３年度	846,561	683,992	58,702	103,867
令和４年度	835,395	678,450	57,369	99,576

消　防　庁　舎　の　概　要

亀山市消防本部・亀山消防署

庁舎の概要	所在地	三重県亀山市野村四丁目1番23号
	電話	0595-82-0244（代表）
	構造	鉄筋コンクリート造　３階建
	敷地面積	6,121．26㎡
	建築面積	1,683．20㎡
	延べ面積	2,479．71㎡
	竣工	平成9年4月1日

亀山消防署関分署

庁舎の概要	所在地	三重県亀山市関町木崎37番地1
	電話	0595-96-1780
	構造	木造２階建一部鉄筋コンクリート造
	敷地面積	2,256．02㎡
	建築面積	685．43㎡
	延べ面積	781．03㎡
	竣工	平成15年3月20日

亀山消防署北東分署

庁舎の概要	所在地	三重県亀山市長明寺町842番地1
	電話	0595-84-1096
	構造	鉄筋コンクリート一部鉄骨造平屋建
	敷地面積	9,378．26㎡
	建築面積	863．98㎡
	延べ面積	832．72㎡
	竣工	平成27年3月10日

常　備　車　両　一　覧　表

所属別 / 車種別	合計	消防本部	警防課	関分署	北東分署
合　　計	18	3	9	3	3
消防ポンプ自動車	3		2		1
はしご自動車	1		1		
救助工作車	1		1		
水槽付消防ポンプ自動車	1			1	
化学消防ポンプ自動車	1		1		
小型動力ポンプ付水槽車	1				1
高規格救急自動車	4		2	1	1
指揮車	1		1		
防災広報車	1	1			
指令広報車	1			1	
資機材搬送車	1		1		
事務連絡車等	2	2			

主たる保有緊急車両

消防ポンプ自動車

高規格救急自動車

救助工作車

はしご自動車

令和３年　地区別各種出動件数表

種別	地区別	合計	亀山	井田川	神辺	昼生	川崎	野登	白川	関	坂下	加太	その他（※1）
火災	合計	17	5	0	1	0	3	1	1	3	0	2	1
	建物	2	2										
	林野	0											
	車両	7	1		1			1		1		2	1
	その他（※2）	8	2				3		1	2			
救急	合計	2,102	729	387	179	63	290	91	41	227	41	43	11
	火災	6	2	1			1	1		1			
	自然災害	0											
	水難	1			1								
	交通	190	49	32	24	6	24	5	3	21	9	8	9
	労働災害	37	2	1	5	2	15		4	6		2	
	運動競技	1	1										
	一般負傷	384	133	81	26	12	42	22	6	49	5	8	
	加害	9	2	4	1		2						
	自損行為	19	7	4	1		2	2		3			
	急病	1,377	468	261	121	43	197	61	28	144	27	25	2
	その他（※3）	78	65	3			7			3			
救助	合計	32	8	3	5	2	1	4	1	3	1	3	1
	交通	16	2	2	4	2	1	1		1	1	1	1
	建物	5	2	1				1		1			
	その他（※4）	11	4		1			2	1	1		2	
その他	合計	235	64	34	25	4	35	13	7	29	10	4	10
	警戒	14	3	3			1	2		1		1	3
	誤報	16	5		3			2	1	3		1	1
	水防												
	その他（※5）	205	56	31	22	4	34	9	6	25	10	2	6

（※1）　高速道路などの市外、県外の管轄区域

（※2）　枯草火災など

（※3）　転院搬送など

（※4）　機械による事故など

（※5）　救急隊の活動支援など

令　和　３　年　度　中　に　お　け　る　主　な　行　事　等

	月	日	内　　容
令和3年	4	1	職員辞令交付式（消防庁舎）
		17	少年消防クラブ入会式（消防庁舎）
	5	12	危険物取扱者試験予備講習会（消防庁舎）
	8	3	通信指令員救急研鑽会（消防庁舎）
		4	社会福祉施設消防訓練【図上訓練】（消防庁舎）
	10	27.28	鈴鹿市との三重県内消防相互応援協定に基づく境界付近の応援出動合同訓練（北東分署）
		31	防火ポスター表彰式（消防庁舎）
	11	4	はしご自動車共同運用に伴う鈴鹿市との合同訓練（市内事業所）
		13.14	甲種防火管理者資格取得講習会（消防庁舎）
		16～19	亀山高等学校インターンシップ（消防庁舎）
		26	甲種防火管理者資格再講習
		30	緊急自動車【普通】機関員養成研修（北東分署）
	12	7	緊急自動車【中型】機関員養成研修（北東分署）
令和4年	1	9	亀山市消防出初式（北東分署）
	2	8.9	緊急自動車【大型】機関員養成研修（北東分署）
	3	19	少年消防クラブ修了式（消防庁舎）

※令和3年6月に開催予定であった「亀山市消防操法大会」をはじめとする各種行事等が、「新型コロナウイルス感染症」の影響から多数中止となりました。